

基本情報

指標番号

2181

名称

肺血栓塞栓症リスク中以上の手術実施症例に対する予防策実施率（60歳以上）

分母

60歳以上の手術麻酔が算定された症例

分子

肺血栓塞栓症の予防管理料の算定、あるいは予防に利用する薬剤が手術日の前日、当日、翌日の少なくともいずれかに算定されている症例

指標群

循環器系

意義

周術期の肺血栓塞栓症の予防行為の実施は発生率を下げることに繋がる。

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

- 計測期間において、様式1の生年月日と入院年月日より入院時年齢を求め、60歳以上の退院症例を対象とする。
- 入院EFファイルを参照し、入院中に以下のいずれかの手術麻酔算定がされた症例。

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150232610	硬膜外麻酔（頸・胸部）	○	○	○	○	○	○	○
150232710	硬膜外麻酔（腰部）	○	○	○	○	○	○	○
150232810	硬膜外麻酔（仙骨部）	○	○	○	○	○	○	○
150232910	脊椎麻酔	○	○	○	○	○	○	○
150332510	閉鎖循環式全身麻酔1（麻酔困難な患者）	○	○	○	○	○	○	○
150332610	閉鎖循環式全身麻酔1	○	○	○	○	○	○	○
150332710	閉鎖循環式全身麻酔2（麻酔困難な患者）	○	○	○	○	○	○	○
150332810	閉鎖循環式全身麻酔2	○	○	○	○	○	○	○
150332910	閉鎖循環式全身麻酔3（麻酔困難な患者）	○	○	○	○	○	○	○
150333010	閉鎖循環式全身麻酔3	○	○	○	○	○	○	○
150333110	閉鎖循環式全身麻酔4（麻酔困難な患者）	○	○	○	○	○	○	○
150333210	閉鎖循環式全身麻酔4	○	○	○	○	○	○	○

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150233410	閉鎖循環式全身麻酔 5	○	○	○	○	○	○	○
150328210	閉鎖循環式全身麻酔 5 (麻酔困難な患者)	○	○	○	○	○	○	○
150332410	静脈麻酔 (十分な体制で行われる長時間のもの) (単純)			○	○	○	○	○
150332410	静脈麻酔 (長時間)	○	○					
150370710	静脈麻酔 (十分な体制で行われる長時間のもの) (複雑)			○	○	○	○	○
150250350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 5	○	○	○				
150250450	ノンレブリージングバルブ麻酔 5	○	○	○				
150331250	ノンレブリージングバルブ麻酔 5 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150331350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 5 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150339550	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 1 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150339650	ノンレブリージングバルブ麻酔 1 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150339750	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 1	○	○	○				
150339850	ノンレブリージングバルブ麻酔 1	○	○	○				
150339950	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 2 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340050	ノンレブリージングバルブ麻酔 2 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340150	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 2	○	○	○				
150340250	ノンレブリージングバルブ麻酔 2	○	○	○				
150340350	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 3 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340450	ノンレブリージングバルブ麻酔 3 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340550	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 3	○	○	○				
150340650	ノンレブリージングバルブ麻酔 3	○	○	○				
150340750	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 4 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340850	ノンレブリージングバルブ麻酔 4 (麻酔困難な患者)	○	○	○				
150340950	気管内チューブ挿入吹送法麻酔 4	○	○	○				
150341050	ノンレブリージングバルブ麻酔 4	○	○	○				

分子の定義

1. 分母のうち、EF ファイルを参照し、当該入院期間中に以下 2、3 のいずれかに該当する症例を抽出し、分子とする。
2. 入院中に肺血栓塞栓症予防管理料の算定のあった症例

レセ電コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
--------	----	------	------	------	------	------	------	------

113006910	肺血栓塞栓症予防管理料	○	○	○	○	○	○	○
-----------	-------------	---	---	---	---	---	---	---

3. 肺血栓塞栓症予防目的で抗凝固療法が行われた症例。以下の薬価基準コードの薬剤が分母で同定した手術日の前日、当日、翌日の少なくともいずれかに算定されている症例。尚、入院中に分母対象の手術麻酔が複数回ある場合は薬剤の実施日については、入院日から最も近い手術麻酔実施日を検索基準とする。

薬価基準コード	名称	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
3332\$	ワルファリンカリウム	○	○	○	○	○	○	○
3334400\$	ヘパリンカルシウム	○	○	○	○	○	○	○
3334401\$	ヘパリンナトリウム	○	○	○	○	○	○	○
3334406\$	エノキサパリンナトリウム	○	○	○	○	○	○	○
3339002\$	エドキサバントシル酸塩水和物		○	○	○	○	○	○
3339400\$	フォンダパリヌクスナトリウム	○	○	○	○	○	○	○

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

パーセント

結果提示時の並び順

降順

測定上の限界・解釈上の注意

- ・抗凝固療法の処方日は肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドラインおよび各薬剤の用法から、遅くとも手術翌日には出血リスクを考慮の上開始することが推奨される。出血リスクのある症例については手術翌日以降に開始される症例もあるが、以後は深部静脈血栓症等の治療目的の処方症例が含まれるため、手術翌日までの処方に限定して測定している。
- ・ノンレブリージングバルブ麻酔、気管内チューブ挿入吹送法麻酔は2015年度までの算定コードであり、現在は閉鎖循環式全身麻酔のコードに含まれる。
- ・次に挙げる抗凝固薬は、術前の使用中止が必要な薬剤であり、また術後の静脈血栓症の発症抑制に適応がないため、本指標の分子に含めない：ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩（3339001：薬価基準コード上7桁、以下同）、リバーロキサバン（3339003）、アピキサバン（3339004）。
- ・ヘパリンの内、薬価基準コード上7桁が 3334402 でコードされる薬剤はロック用の製品であり、本指標の分子に含めない。

参考資料

参考値

参考資料

1. 独立行政法人 国立病院機構 臨床評価指標 Ver.4.1 計測マニュアル
2. 日本循環器学会,肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン (2017年改訂版)